

「ワンちゃんにもお洋服を着せて一緒にお洒落を楽しもう！」
と思えることがどれだけ恵まれた状況であるか…。
敢えて口には出さずとも私たち愛犬家はみな、わかっていることでは
あります。

シャオクロフレンズちゃんたちのパパさん、ママさんは
フレンズちゃん達のが大切で、愛おしくてたまらないこと
と思います。食事や病院は勿論のこと、可愛い御洋服を買って着せて
あげたい。そんな服を着て一緒にお出かけしたい。カフェに行きたい。
走り回りたい。
私たちシャオズクローゼットのドッグウェア販売事業も、
そのような恵まれた状況があってこそ展開できる事業です。

その一方で、ペットショップの倒産、ブリーダーの崩壊、無責任な
元飼い主たちの放棄…様々な「人間の事情」で小さな命の灯を、
明日、消してしまわねばならないワンちゃんやニャンちゃんが本当に
沢山存在していることもまた現実です。
シャオクロフレンズちゃんの中には、実際にこのように消えかけていた
命の灯を「里親」として迎え愛し、大切に大切に一緒に暮らして
いらっしやる方も多と思います。

同じ大切な命なのに、存在なのに。小さな命を守ってあげたい気持ちは同じなのに。「どうかして、その命を守る、繋ぐお手伝いがしたい」という願いから
シャオズクローゼットでは、売上の一部をそのような活動に役立てて頂くために寄付金として支援させて頂くことに致しました。

このような「里親活動」や「無料不妊手術支援」への関心はあっても、また、「支援したい」「チャリティー活動がしたい」と思っただけでも日常生活を送る中では
なかなか取り組みなかったり、またやりたいけれどどうやったらいいのか分からない…等、なかなかきっかけが掴めないまま時間だけが過ぎていきがちです。

また、切ない現実ではありますが、「動物の支援」については日本では未だ、予算や補助金の配慮が非常に少なく、活動のほとんど全ては雄志や善意からの支援が殆どです。

そこでシャオズクローゼットでは、皆さまの通常御買上金額の1%を、チャリティ対象商品等では更に数%～全額を
公益財団法人「どうぶつ基金」の活動に寄付をさせて頂くことに致しました。(※例えば、2,500円御買上頂きますと、25円が寄付となります。)

寄付金は、新しいソパママさんとワンニャンちゃん達が出会うための「里親探し」活動等を行っている全国の譲渡事業団体や個人活動家の方々への
活動助成金としても役立てられます。

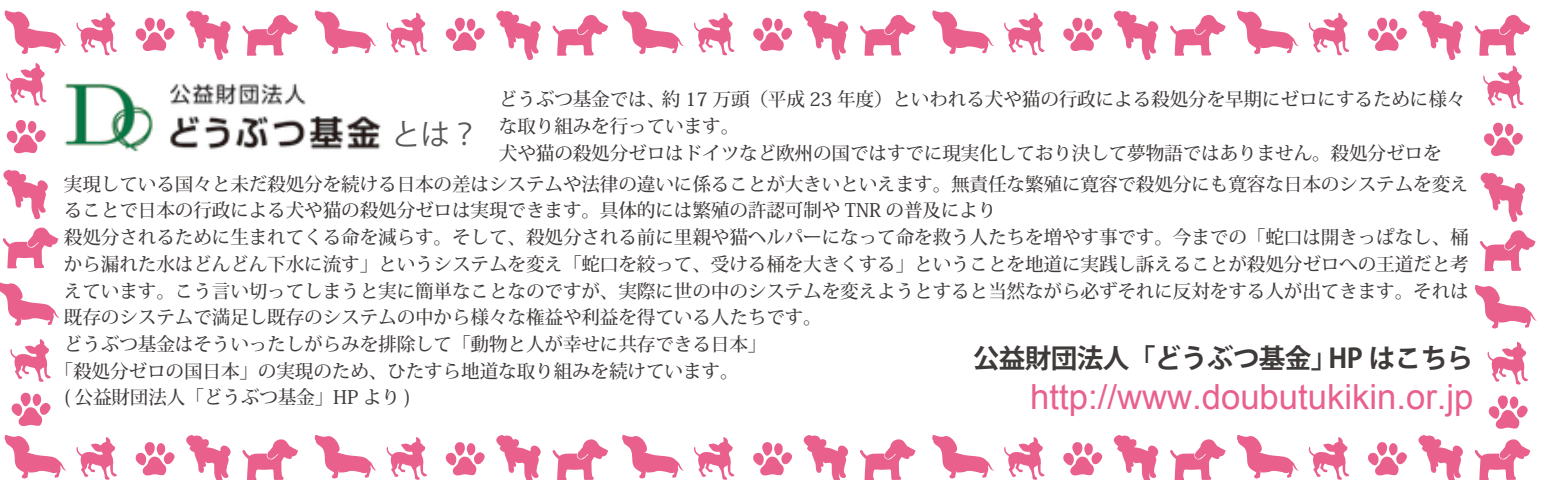
売上の「1%」は、決して多い金額ではありません。シャオズクローゼットの1着の平均販売価格2,800円前後からすれば1着で28円程度の寄付となります。
それは寄付だなんだと大きな声で言える数字ではないかもしれませんが、しかし、私どもは「支援」で最も大切なことは、
「継続できること」だと思っています。そのような背景から、通常売上の1%とさせて頂くことに致しました。また、今後はチャリティー対象商品もご提案させて
頂ければと思っております。

この一着が、可愛いワンちゃんニャンちゃんの大切な命を繋ぐお手伝いができればと願っています。また、皆さまにも、シャオクロウェアをご購入頂いている
可愛い宝物ワンちゃんの姿を見た時に一瞬でも「ああ、このウェアで可愛い命を繋げているかな…」と思っただけでも、そして、「この温かな幸せ」を噛みしめ、
どこかでソパママを待つ可愛いワンニャン達がソパママと出会えることを願って頂ければ幸いです。

動物には表情筋が無い「表情」は無い、と言われていました。私たちはそうは思っていません。動物にも確実に確かに「表情」があります。
楽しい時や嬉しい時は「笑顔」。寂しい時は「沈んだ顔」。辛い時は目に涙も浮かべています。
だから私たちは、ワンちゃんやニャンちゃんの「笑顔」を増やしていきたいと願っています。

皆さま、何卒ご協力・ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

SHAO'S Closet
オリジナルドッグウェア「シャオズクローゼット」運営元
シーアンドピートレーディング(株)



D 公益財団法人 **どうぶつ基金** とは？

どうぶつ基金では、約17万頭(平成23年度)といわれる犬や猫の行政による殺処分を早期にゼロにするために様々な取り組みを行っています。
犬や猫の殺処分ゼロはドイツなど欧州の国ではすでに現実化しており決して夢物語ではありません。殺処分ゼロを
実現している国々と未だ殺処分を続ける日本の差はシステムや法律の違いに係ることが大きいといえます。無責任な繁殖に寛容で殺処分にも寛容な日本のシステムを変
えることで日本の行政による犬や猫の殺処分ゼロは実現できます。具体的には繁殖の許認可制やTNRの普及により
殺処分されるために生まれてくる命を減らす。そして、殺処分される前に里親や猫ヘルパーになって命を救う人たちの増やす事です。今までの「蛇口は開きっぱなし、桶
から漏れた水はどんどん下水に流す」というシステムを変え「蛇口を絞って、受ける桶を大きくする」ということを地道に実践し訴えることが殺処分ゼロへの王道だと考
えています。こう言い切ってしまうと実に簡単なことなのですが、実際に世の中のシステムを変えようとするとなんか必ずそれに反対をする人が出てきます。それは
既存のシステムで満足し既存のシステムの中から様々な権益や利益を得ている人たちです。
どうぶつ基金はそういったしがらみを排除して「動物と人が幸せに共存できる日本」
「殺処分ゼロの国日本」の実現のため、ひたすら地道な取り組みを続けています。
(公益財団法人「どうぶつ基金」HPより)

公益財団法人「どうぶつ基金」HPはこちら
<http://www.doubutukikin.or.jp>